

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・ホームの理念を掲示し、ホーム会議・朝礼で唱和し理念の共有化に努めている	社是、運営理念は各ユニットのフロアと面談室に掲げられ、事業所の方針を分かり易くしている。契約時には理念等を説明し、事業所の姿勢を伝えている。毎週月曜日は「社是・運営理念」を、毎月19日には「安全5つの誓い」を唱和し職業者としての志を再確認し、日々実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム内の行事に参加して頂いたり、地区の育成会の催しでの子供たちとの交流や文化祭への作品出品など地域とのつながりを大切にしている	自治会に加入し地区の行事案内や市報を受け取っている。地域の文化祭には利用者の作品を出品している。ヘルパー受講生や再就職支援の講座の実習場所として、また、市内の中学校の職場体験の場として開放している。庭木の刈り込みや傾聴のボランティアも来訪している。10月のニチイ祭りでは隣組中心に各戸を訪問しチラシを配布した。家族も駆けつけ家族間交流も出来た。外出時には住民と挨拶を交わし、近所の方から野菜をいただくこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者様に迷惑のかからない範囲内で必要に応じて事業所の特質を活かした広報を心がけ、市や社協と合同での活動も積極的に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で頂いたご意見を職員全員で共有して、サービスの向上に向け話し合い取り組んでいる	会議は偶数月の第3月曜日18時から隣接の小規模多機能型事業所と合同でホーム会議室で行われている。家族代表、区長、市福祉課職員、地域包括支援センター職員が出席し事業所の運営や活動内容等の報告をし、避難訓練に地域の力を借りたいなどの意向も伝えている。市側からの報告や情報などの説明の後、参加者と質問や意見交換、懸案があれば話し合いも行っている。区の役員の任期は暦年で毎年交代している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ報告・連絡・相談を実施している。ご意見に対してはすぐ検討し実施するようにしている	市主催の事業所連絡会は毎月開かれており情報交換、研修なども行われ、ケアマネージャーが出席している。年1回2名の介護相談員の訪問があり、利用者から意見や要望などを伺い、書面や口頭で伝えられ、それについて回答書を作り市に提出している。介護認定調査員が来訪した時には本人の様子を伝え、家族が同席することもある。市外からの利用者には町村から担当者が来訪し調査が行われ、職員は本人の様子を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	最低でも年に1回以上は研修を行ない、日常的にケアにおいて問題があればその都度指導し、全職員での共有が出来るよう取り組んでいる。現在、夜間のみ玄関の施錠をしており、居室の施錠はしていない	法人として年1回、身体拘束に関する研修を義務付けている。拘束の内容や弊害を職員は認識しており、利用者が気持ちよく生活できる、自由な環境づくりに努めている。不適切な言動や対応があれば管理者も指導するが、職員間でも注意し合っている。緊急やむを得ない場合については全職員で検討し、また家族にも説明し同意の上で行ない、経過観察記録が必要であることも理解し取り組んでいる。	

ニチイケアセンター 柏木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、勉強会をホーム全体で行なうと共にご利用者様の身体や精神面の変化に常に気を配り、小さな変化も必ず報告するように職員全員に指導し、都度カンファレンスすることで風通しを良くしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されているご利用者様がおられ、学ぶ機会が必要と考え定期的に勉強会の機会を作っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約取り交わし時に契約書・重要事項説明書にそって(個人情報取り扱いも含)説明、疑問・不明点を確認している。また、後日気付いた点等あった場合、お知らせいただけるようお願いしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等の機会にご家族様とコミュニケーションを取り、率直なご意見等を頂ける様働きかけている。頂いたご意見・苦情等は早急に共有し解決に向けて話し合うようにしている。自治体・県相談窓口を施設内重要事項説明書に掲示し、当事業所内にも窓口のあることとお知らせしている	家族や後見人が来訪した時には本人の様子を報告し要望や気になることなどを伺っている。どんな些細な事でも検討し、サービスや運営に活かしている。担当職員は本人の様子を家族に知っていただくために近況報告を文書にし、写真で暮らしの様子を伝える「ほほえみギャラリー」と一緒に毎月家族に送っている。家族会を開催し、医療連携加算(訪問看護との契約)の件や4月からの認知症共用デイサービス開始に向けてのお知らせなど説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で発言する場を設けたり、個々に面談を行なっている。日頃から職場内で意見を言いやすい環境づくりに取り組んでいる	ホーム会議、ユニット会議、朝礼、カンファレンス等で職員はテーマに沿って意見を出し合い、提案を述べる機会が設けられている。ケア委員会、アクティビティ委員会、排泄委員会、献立委員会等があり各委員会で検討された事項の多くは運営に反映されている。人事考課制度が導入されており年2回上司と面接し、職員は相談や思いを話し、助言を得ることで仕事や日々の生活への活力となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別職員の意向を重視しながら やりがいや向上心を持てる職場環境づくりに取り組めるよう働きかけがある。人事考課により個別の業績評価の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じ、法人内研修の受講を実施している		

ニチイケアセンター 柏木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質を向上させる為、勉強会やネットワーク作りにもっと真剣に取り組んでいきたい		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接・相談から得たご利用者様についての情報を共有し、安心して過ごしていただける環境作りを心がけている。日常においてもよくコミュニケーションをとり、訴えを聞き取るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接。相談において不安や困った事等をよく伺い、要望・状況に基づいたプラン作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居理由をしっかりと伺い、その方にとって一番よいサービス方法のひとつをお話させて頂いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常においてよくコミュニケーションを取ると共に必要に応じてスキンシップをはかり、協力しながら生活を共に築いていく姿勢に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られた際に食事の介助をして頂いたり、日頃の様子や心身状態をお伝えしている。また、月に一度お手紙で近状をお知らせしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常生活の中で過去の記憶や思い出をお聴きし、共有・共感出来る様に努めている	以前住んでいた近所の友人が家族の了解の上、訪問している。遠方の身内からの「面会に行けないから母と話したい」という電話なども取り次いでいる。法事や新盆などで外泊せずに2日連続して一時帰宅する方、お盆やお正月に外泊される方など家族や親戚との関係が利用後も続けられている。馴染みの理容室に通っていた利用者が訪問の理容師と意気投合し「ここがいい」と現在はヘアカットや毛染めをホームで受けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの立場を把握し、ご利用者同士が上手くコミュニケーション取れるように支援している		

ニチイケアセンター 柏木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お手紙を差し上げる等、柔軟な対応に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全員がご利用者様一人ひとりに寄り添い、希望や意向を十分理解できるよう努めている。また、カンファレンスなどでも検討する機会を多く設けている	利用者が何気なく話すことや呟きなどに思いや希望を洩らすことがあるのでいつも関心を持ち、日々接している。入浴時など一対一になった時に本音を洩らす方もおり、その内容を取り上げ、カンファレンスで検討しケースによっては介護計画につなげることもある。また、得られた情報を共有し、本人の日々の暮らしに役立てるようにしている。意思表示が難しい利用者の場合には利用前からの情報などを参考に本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前のアセスメントにより得たご利用者様それぞれの情報を全職員で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に検討し、現有機能を活かした支援に努めている。心身状態について都度細かに申し送り、職員全員が把握し、安心して生活して頂ける様支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様がより安心して暮らして頂ける様、カンファレンスでの意見やご家族様の要望・ご意見も取り入れた介護計画書を作成、計画に基づいた支援をしている。また、必要に応じて都度カンファレンスを行ない、現状に添った計画書を作成している	利用者が自分らしく暮し続けることが出来るようにケアマネージャーによって作成されている。職員は利用者を1~2名受け持ち、本人の状態やプランの遂行状況を確認しケアマネージャーに報告している。評価は1ヶ月、見直しは3~6ヶ月で行っている。見直し前には来訪時や電話で家族からの意向・意見などを伺い参考にしている。状態変化やプランが実行できないなど問題が生じた時には内容を見直し現状に即したものに作り変えている。廊下の手すり沿いに「頑張って」「あと1m」「あと2m」と書かれた紙が貼ってあり、車椅子自走訓練に使用したとのことで現在は自走できるようになったという。計画達成の証しを見るが出来た。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日々の様子を個別に記録している。特別なことがあった場合は申し送りをし、職員間で情報を共有してその日の状態に合ったケアを行なっている。また状態によっては早急にカンファレンスを行なっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	許される範囲内で柔軟な姿勢でニーズに応えている		

ニチイケアセンター 柏木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回提携医に訪問診療して頂いている他に、ご家族希望のかかりつけ医には適宜受診して頂いている。医療機関同士で連絡を取り合っており、訪問診療の経過、ホームの様子についてご家族様へ定期的に連絡している	利用開始後、本や家族の希望で提携医に変更し定期的に往診を受けている方が多い。かかりつけ医の通院や受診に関しては家族が付き添うが、家族の都合により職員が付き添うこともある。提携医院の看護師が医師の指示と事業所の依頼に合わせ訪問している。現在訪問看護ステーションとの医療連携の話が進んでおり職員は定期的な訪問があることで安心できると期待を寄せている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時の記録をしている。往診時や看護師の訪問の際は「訪問診療記録」に基づいて状態を報告し、受診後はその様子等を記録し全職員に申し送っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と提携医で利用者の様子について連絡を取り合っている。入院中は、管理者・ケアマネジャーが病院訪問し情報交換を行なっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の希望やご本人の思いが叶う様医療と連携を取りながら安楽な生活をして頂けるよう支援している	重度化や終末期支援について契約時に事業所の方針を説明し同意を得ている。状態に変化が生じた場合には主治医が家族に状態を説明し、その結果、事業所での終末を希望した場合は医師や看護師と連携しながら本人、家族等が納得できるよう全職員で出来る限りの支援を提供する方針である。事業所で提携医の協力を得ながら最期を迎えた方、終末期を過ごしながらい医療機関に移られて最期を迎えた方もいる。家族からホームに対して感謝の言葉が贈られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に対して「緊急対応マニュアル」をフロア内に掲示すると共にケアスタッフマニュアルに記載された対応を熟読し実践できる様に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行いそれぞれの利用者の避難方法を話し合い、地域にも協力して頂けるようお願いし、協力体制に努めている	年2回、消防署の協力を得ながら日中の災害訓練(通報、避難・誘導、消火器の扱い方等)を利用者参加で行い、同時に内階段を使つての避難・誘導訓練も実施している。全職員が何時でも通報や利用者の誘導が出来るように取り組んでいる。火元点検は遅番と夜勤者でダブルチェックを行っている。また、食事やおやつ作りの後は毎回、必ずガス栓を「OFF」に切り替えている。自動火災報知機、スプリンクラー、誘導灯、消火器等防災設備を備えている。水や非常食の備蓄もある。長崎のホーム火災後、防災に関する消防署の立ち入り検査を受けている。	夜間(薄暮)あるいは夜間想定避難訓練の実施と非常階段を使つての避難・誘導訓練を行うことを期待します。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した声がけを行ない、尊敬の思いを持ってお話をさせていただく様に徹底統一している。個人情報の破棄にはシュレッダーを使用している	個別に話しかける時には苗字や名前に「さん」をつけている。「利用者様」でなく「お客様」と総称し敬意を表している。人権尊重やプライバシー保護に関する研修も行われている。個人情報保護トレーニングテキストで学び、問題集もある。年1回自己採点結果を上司に提出している。新規採用者も採用研修でトレーニングを受けている。個人の尊厳を守ることや守秘義務について周知徹底されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の意志を引き出せる様な声がけや、思いや希望を表せるような環境作りに努めている	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の意思を尊重し、体調と合わせてそれぞれのペースで毎日を過ごして頂ける様支援させて頂いている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や整髪・髭剃り等出来る事はして頂き、ご本人の希望に添った支援をしている	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご希望をお聞きしてお好きな物や馴染みの料理を取り入れ、下ごしらえや器の準備等一緒にして頂いている。また、おやきやおはぎ等手作りの行事を企画して活躍の場を作り、楽しみながら食事をして頂けるように工夫している	献立は利用者の食べたいもの、旬の食材を使った料理、行事の祝い膳、土地ならではの料理などを組み入れながら職員手作りのものとなっている。旬の料理や昔からの行事食などは利用者に関心しながら作っている。誕生日の献立は本人の要望を聞き、おやつにケーキをつけてお祝いしている。農家の方や近所の住民から野菜や果物の差し入れもあり、食卓はいつも彩り良く、テーブルを華やかにしている。盛り付けを見て利用者も「今日はきれいだ〜」、「赤色や黄色も緑もある」としばし眺めてから箸をつけていた。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人のペースで水分が摂れる様に、ゆっくり時間をとる、お好きな飲み物を選んで頂く、時間に拘らずこまめに声がけする等の工夫しつつ、体調によりメニューや食事の形態を変更するなど状況に応じて都度対応させて頂いている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	提携医の指導も踏まえ、個々の状態に合わせた口腔ケアを毎食後行なっている。また、必要に応じてアイスマッサージなども行なっている	

ニチケアセンター 柏木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、個々の排泄パターンや習慣に合わせた声がけ、誘導・介助を行ない出来る限り自立での排泄が続けられる様に支援している	リハビリパンツにパットの方が多い。布パンツで自立している方もいる。体の状態でベッド上で過ごす時間が長い方には時間での支援となっている。一人ひとりのリズムや習慣に合わせてながらトイレでの排泄が行われている。夜間のみポータブルトイレを使う方もいる。失敗は殆どないが、仮にあったとしても本人が困らない声がけを工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・乳製品等摂って頂くようにしている。水分が摂りにくい方にはゼリーなどで摂取して頂いている。また、食事には繊維質の多い食材を取り入れたり、定期的な散歩や毎日の体操を行うなど予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や様子に配慮しながら出来る限り希望に添って入浴して頂いている。気乗りしない日は手足浴を勧めたり入浴剤を使用するなど気分転換をして頂けるように工夫している	お風呂は毎日準備し、何時でも入浴できるようになっているので平均週2～3回入浴できており、拒否のある方も週2回は入浴できている。状態によりシャワー浴対応の方もいる。入浴剤は色の薄いものを使用し、安全面に留意している。脱衣所は長めのカーテンで仕切ることが出来、プライバシーにも配慮がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、天候や状態に応じて外気浴・レクリエーション等の参加の声がけをしているが、それぞれにお好きな事をして頂き、気分転換を図るなど安眠休息のための個別支援に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は服薬マニュアルにしたがって管理しており、提携薬局より都度指導頂き、薬局担当が申し送り全職員が理解できるように努めている。また、症状の変化等について提携医と連携をとり、確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの特技や趣味を活かせるように日々支援させて。毎月2回程度、誕生日会や季節の行事を計画、準備から協力して行事を盛り上げて頂き気分転換できるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様のご希望がある時は積極的に出かけ、職員からの声がけでも定期的に屋外に出かける機会を作るように努めている。また、ご家族様の協力も得て出かけられる様に支援している	90歳～97歳の方が6名、85歳～89歳の方が8名と高齢の利用者が多く、全体での外出が難しいため個別の希望に沿って外出している。例えばラーメンを食べたい、寿司屋さんに行きたい、買い物したい、スーパーに行きたい等要望が出ており、その都度、本人や家族の了解を得て、プランにのせ出掛けている。日常的には敷地内や周辺を散策したり、日向ぼっこ等で気分転換し、外気に触れる機会を設けている。	

ニチイケアセンター 柏木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に一括管理させて頂いているが、ご本人様の希望や必要に応じて買い物等に出かけ、ご自身でお支払いして頂けるよう援助している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時はいつでもご家族様や大切な方と電話・手紙のやり取り後出来る様に援助している。また、毎年フロアで年賀状をご本人様の自筆で手作りし、でご家族様に送らせて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱を招く事のない様極力配慮している。係りが中心となって、生活感や季節感をとり入れた装飾等を行ない、居心地良く過ごして頂ける様工夫している	各ユニットの玄関ホールには折り紙の鶴が幾つも下がり、食堂や廊下の壁には折り紙のお雛様や鮮やかな紙で作った紙細工の飾り物、利用者の合同作品である満開の桜の貼り絵などが飾られている。食堂の窓からは中央アルプスが望める。馴染みの山々を見たり、大型テレビでニュースや歌番組を見たり、和室で洗濯物をたたんだり、食事作りに加わったりと日中の多くの時間を居間兼食堂で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご希望を伺ったり、ご本人の様子によって声かけするなどして、一人ひとりが思い思いに過ごして頂ける様に心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様・ご家族様と相談して、使い慣れた物や家具を置くなど、馴染みのある居心地の良い環境作りの工夫に努めている	どの居室の窓からも里山やその奥に雪を被った南アルプスや中央アルプスの山々が見える。フローリングの居室には衣装ケースが幾つも入る大きなクローゼットがある。ベッドや寝具類、テレビ、家族の写真などが持ち込まれ、壁に職員の寄せ書きがある誕生祝カードが飾られるなど、どの居室も整理整頓され清潔感がある。窓のカーテンの開け方1つで居室の雰囲気が変わって見え、ユニット毎で違う印象を受けた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や移動の妨げになる物、危険だと思われる物は取り除くなど安全に配慮しながらご本人の意思で出来る限り自立した生活が出来るよう援助している		